

コラムを読み解く(中学・国語)

()中学校()年()組 氏名()

南風録
「飛ぶ教室」はドイツの作家エーリッヒ・ケストナーの代表作だ。寄宿学校の生徒たちが派手な雪合戦や教師との触れ合いを通じて友情や師弟愛を育む▼出版は1933年。ヒトラーの政権が誕生した年である。詩や小説、評論でナチスを批判してきたケストナーは「好ましからぬ作家」としてにらまれ、秘密警察に2度連行されている。多くの著作が他の自由主義者の本と共に焼かれたが、児童文学だけは黙認だった▼「飛ぶ教室」の前書きに象徴的な言葉がある。「賢さを伴わない勇気は乱暴でしかないし、勇気を伴わない賢さは屁のようなもの」。世界の歴史には愚かな連中が勇気を持ち、賢い人たちが臆病だった時代がいくらかもあったと続く。ナチスの暴挙に沈黙する国民への命がけの警鐘にも読み取れる▼椋鳩十の生誕120年に合わせた本紙連載を読んで、同じ感想を持った。軍国主義の風潮が高まる中で発禁処分を受け、児童文学を選択したのは偶然か必然か▼敵を殺すこと、国のために死ぬことが賛美された時代に、椋は愛と優しさに満ちた動物物語を続々と発表する。洋の東西を問わず、先の大戦で作家たちは、生命の危機を感じながら筆を執り続けたのだろう▼防衛力強化が声高に叫ばれる戦後80年。今がそうした時代ではないと言い切れない空気が広がる。2人が作品に込めたメッセージから学ぶべきことがある。

2025年1月10日付1面

【問1】 「飛ぶ教室」の作家、エーリッヒ・ケストナーの多くの著作が焼かれたのはなぜですか。

【問2】 「飛ぶ教室」の前書きの言葉を、南風録の筆者はどのように読み取っていますか。

【問3】 軍国主義の風潮が高まる中で発禁処分を受け、児童文学を選択した作家として誰を紹介していますか。

【問4】 椋鳩十さんは、どのような物語を発表しましたか。

【考えを書きましょう】 「2人が作品に込めたメッセージから学ぶべきことがある」とありますが、どのようなことだと思いますか、あなたの考えを書きましょう。

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

触(ふ)れ合(あ)い

黙認(もく・にん) = とがめないで、黙って認めること。見逃すこと

象徴的(しょう・ちょう・てき) = あるものが別の物事をたとえて表すこと

賢(かしこ)さ 伴(ともな)わない

愚(おろ)か 臆病(おく・びょう) = びくびくして恐がること

沈黙(ちん・もく) = だまっていること

警鐘(けい・しょう) = 注意をうながすこと 椋鳩十(むく・はと・じゅう)

連載(れん・さい)

軍国主義 = 国の政治・経済・法律・教育などの政策・組織を戦争のために準備し、対外進出で国威(こく・い)を高めようとする思想や体制

風潮(ふう・ちょう) = 時代の移り変わりによって生ずる世の中の傾向

選択(せん・たく) 偶然(ぐう・ぜん)

洋の東西を問わず = 地球上どこでも。世界中共通して

筆(ふで)を執(と)り続(つづ)けた = 書画や文章を書き続けた

声高(こわ・だか)

叫(さけ)ばれる

込(こ)めた

